

第3章 平成23年度の事業実施計画

第1節 平成23年度の事業の目的

本年度の目的の一つは、キャリアプランシートシステムに自己履修点検評価機能を付加した「履修カルテシステム」を導入し、平成22年度に作成した「キャリア・ディベロップメント証明書発行システム」と連携させることで、工学技術者キャリア教育のための「キャリア形成支援システム」として完成させることである。このシステム完成で、学生のキャリア形成を一貫して支援できる継続体制が構築できることになる。開発してきたキャリア形成学習の各種プログラム（工学技術者知識講座、資格支援講座、工学デザイン実習、企業インタビューなど）を学生の自学自習キャリアアップのために本年度も提供することで、自発性・積極性を身につけた企業が期待する学生の育成を達成するのがもう一つの目的である。2つの目的の達成により、取り組みプログラムの目標である「学生が本気で学び、社会で通用する力をつけるキャリア教育プログラム」を達成する。

第2節 事業実施計画と期待される成果

事業の目的を達成するため、下の16の取組を実施する。

- ① 4月 キャリア事業担当職員（非常勤の特任教授1名、事務補佐員1名）の雇用
キャリア事業担当職員として非常勤の特任教授1人（週1回程度）および事務補佐員1人を雇用して、キャリア教育担当の事業および学生の支援業務を行う。
キャリア事業担当の教員および職員の雇用により、キャリア教育担当の事業および学生の支援業務を強化して事業推進が加速する。

- ② 4月 キャリアプランシートを含む履修カルテシステムの仕様策定と発注（12月完成予定）

平成22年度に完成したキャリア・ディベロップメント証明書発行システムに連携するソフトプログラムとして、学生の自主的なキャリアプランの策定と継続的な学習を支援する目的で、キャリアプランシートを含む履修カルテシステムを設計し、5月からソフト開発を業者に委託し、12月にシステムを完成させる。新たに開発した履修カルテシステムと平成22年度に開発した証明書発行システムを一体運用できるようにする。

12月に「履修カルテシステム」を完成することで、工学部学生がキャリア・ディベロップメント証明書発行システムを含むトータルなプログラムシステムとして「キャリア形成支援システム」を利用可能となる。キャリア形成支援システムでは、キャリアプランシートで大学での授業・学習と個人的な自主キャリア形成学習の両方をシステムで自己管理できるようになる。すなわち、大学での共通教育・専門教育での履修経歴・学習状況を把握でき、また自主的なキャリア形成の目標設定と定期的な自己

点検が可能になる。さらに、自主的なキャリア形成活動をキャリア・ディベロップメント証明書として発行することで、学生の就職活動にも役立つシステムとなる。

- ③ 4月 1年生を対象に高校からの継続教育として数学・物理の補習授業を実施
各学科の1年生に対して大学での数学基礎学力調査を実施し、学力の不足する学生に課外での補習授業をおこなう。物理の補習教育も実施する。
推薦入試入学者など工学基礎として必要な数学や物理を学んでいない学生への補習で、学生の基礎学力を揃えて専門教育へスムーズに移行できる教育効果がある。

- ④ 4月 基礎科目での自習学習グループ形成の募集・実施および企業の工学基礎教育へのニーズの調査

数学および化学で、学生に自主的な学習意欲を起こさせ専門基礎知識を向上させるために、自主学習グループ形成を募集して実施する。

日本の大学生に一般的に不足するのは、自主学習への意欲と積極的な態度である。大学でも講義など学生が受動的に学習する仕組みに加えて、自主的な学習を促す仕組みの導入が重要で、自主学習グループ形成は自主的に学ぶ意欲を伸ばし積極的な姿勢の学生を育成できる試みとして重要で、意義深い取り組みである。教員を数学工学教育討論会などに派遣し、企業が求める工学部での数学レベルなどを調査・把握して、改善に生かす。

- ⑤ 5月 基礎数学・基礎物理サポーター養成セミナーの実施と学生の質問へのサポーターによる指導

数学は工学基礎教育として重要であり、数学に対する学生の興味と能力向上を目指し、大学院生や高学年の学部生を基礎数学・基礎物理サポーターとして養成するセミナーを実施し、養成したサポーターが学生の質問に答える仕組みを実施する。

基礎数学サポーターの育成で優秀なTAを育成し伸ばし、かつ低学年学生の質問に答えることで学年を越えた勉学上のコミュニケーションが可能になる。学科横断的な学生相互間での学習ネットワークの形成に繋がる。

- ⑥ 7月 中長期インターンシップの希望者募集と希望者があれば企業と調整実施

インターンシップは学生が企業や社会と接して学ぶ手段として有効であり、キャリア形成学習の観点からも効果が高い。このため、大学院進学予定の4年生を対象に中長期インターンシップを試行的に募集し、実施する。

学部でのインターンシップは既に実施してきたが、インターンシップ期間が1週間以内と短く、学生にとって深い企業理解に繋がっていない点が問題であった。中長期インターンシップを学部4年生に試行的に実施することで、大学院修士課程での教育研究に繋がる企業と深く連携したインターンシッププログラムの開発が可能かどうか判断できる。学生にとっては学部から修士課程まで一貫した企業経験ができるシステムとなる。

⑦ 8月 資格取得支援講座の実施

専門知識を生かして国家資格の取得を目指す学生が多く、学生のニーズに応じて資格取得支援講座を毎年継続開講しており、平成23年度も要望の高い講座を開講する。

大学が組織的かつ学生のニーズに即して資格取得支援講座を実施することにより、学生個人の意欲を伸ばし、かつ学生の専門知識・能力を高める課外講座とできる。学生にとっては、自主的にキャリア形成を行うときに、大学教員が支援をしてくれることになる。

⑧ 9月及び2月 工学技術者知識講座Ⅳ（9月）およびⅥ（2月）の実施とeラーニングシステムによる収録・公開

これまで2年間実施し、学生から好評である工学技術者知識講座を平成23年度も企画して実施する。企業からの講座講師を招聘し、9月に知識講座Ⅳを、また2月に知識講座Ⅵをキャリア形成学習のために開講する。

工学技術者知識講座は企業や社会との接点が薄い学生にとって、講座講義を通して大学外の社会を知ることができる貴重な機会となっている。大学時代から企業や社会を知ること、成人としての自分の立場を考えるよい機会となる。

⑨ 9月及び3月 工学デザイン実習の実施

工学デザイン力や創造力を養う目的の体験学習プログラムである工学デザイン実習を9月と3月に参加学生を募って実施する。

工学デザイン実習は大学1～2年生を主な対象とする実習・実験プログラムで、学生は学科や専門に関係なく体験創造型の実習・実験を体験することで、工学デザインという広い視野と自由な発想力をチームで体験できる。このため、学生はチームワークや自ら考え、解決する姿勢を持ち、また工学センスやデザイン力を磨ける。

⑩ 10月 企業インタビューの実施

学生が企業活動への理解を深め、企業を知ることによって工学技術者としての使命と学習意欲を高めるために、企業インタビューを実施する。インタビュー内容はSCEプログラムホームページに載せて、他の学生にも情報共有を行う。

教員やキャリア教育アドバイザーが参加学生と相談して、学生主体の企業インタビューを実施する。学生と企業人とのコミュニケーションを可能にし、チームワークを体験できる。また、学生はインタビューを実践することで、企業活動の内容について考察できる能力が高まる。

⑪ 11月 野外体験研修ビジネス・シュミレーション・ラリーを工学技術者知識講座Ⅴとして実施

企業での社員研修用に開発された野外体験型研修“ビジネス・シュミレーション・ラリー（BSR）”を、学生が自ら考えチームワーク力を育成する取り組みとして、工学技術者知識講座Ⅴとして11月に実施する。

企業ではチームで問題解決を図るのが一般的であるが、大学教育では授業でチーム活動を体験できる機会はまだまだ少ない。ビジネス・シュミレーション・ラリー（BSR）は、学生にとって協同で考え、作業する体験ができる貴重な機会であり、かつ企業研修を学生時代に体験できるよい機会でもある。BSRの体験を通して、学生が企業を疑似体験できる効果も大きい。

⑫ 11月 キャリア教育FD研修会の実施

教職員を対象としたキャリア教育FD研修会として平成22年度までに4回継続して実施してきた「宮崎大学専門職・技術者倫理教育ワークショップ」の第5回目を11月に実施する。

第5回目となる専門職技術者倫理ワークショップを開催し、教職員相互が議論し、互いに啓発・情報交換する機会とする。

⑬ 12月 キャリア形成支援システムとSCEプログラムの学生への周知（ホームページ更新と説明印刷物の配布）

履修カルテシステムとキャリア・ディベロップメント証明書発行システムとを統合したキャリア形成支援システムが12月に完成する。キャリア形成支援システムとSCEプログラムの学生への周知を改めて行うために、SCEプログラムホームページを改良・更新してキャリア形成支援システムとリンクさせて公開・広報できるように整える。また、プログラム説明の配布印刷物を作成して、工学部全学生に配布する。

キャリア形成支援システムが12月に完成するので、この時期にSCEプログラムの取り組みと合わせて、学生に再度周知を図かることで、学生のキャリア形成学習への意欲がたかまる。このため、SCEプログラムホームページの改良・更新とSCEプログラムの取り組み紹介パンフレットで学生にもわかりやすい説明をする。

⑭ 1月 平成23年度教育改革プログラム合同フォーラムで教育改革情報交換

平成23年度の教育改革プログラム合同フォーラムに参加して、本学が実施している「自主を促す工学技術者キャリア教育」の取り組みを紹介し、また他大学の教育改革実践事例の情報収集を行う。

宮崎大学工学部が平成23年度までの取り組みとして開発する「キャリア形成支援システム」は、他大学でこれまで開発された同種の教育支援システムにない特徴である「キャリア・ディベロップメント証明書発行」と「キャリアプランシート作成」のシステムを含む。これらを中心に宮崎大学の取り組みを多くの大学に知らせることで、各大学に学生へのキャリア教育改善の情報発信を行う。

⑮ 3月 推薦入学者への事前教育（添削による教科学習、物理体験実験）

推薦入学者の入学前の事前教育など高校と大学の学習内容の継続は重要な課題である。このため、推薦入学者へ数学などの入学前学習教材を送付して添削による教科学習を行う。また、推薦入学者に物理体験実験への参加を募り、課外で実験を実施する。

推薦入学者への休学前補充教育や物理体験実験の実施により，高校教育と大学教育の継続問題である数学や物理の高校でも未学習や知識不足を解決する。学生にとって1年生の4月入学後の大学教育での学習内容とのギャップを埋める効果がある。

⑩ 3月 プログラム実施報告書および自己点検評価報告書の作成，外部評価委員会の開催

3年間で実施した本補助事業を総括し，かつ次年度以降に取り組み成果を大学全体に波及させる目的で，事業実施報告書を作成し，また外部評価委員会を開催する。

外部評価委員会で取り組みの改善点を明らかにして，次年度以降のキャリア教育事業のPDCA活動に生かす。特に，3年間の成果を総括し，問題点を点検評価することで，大学全体への取り組みの普及に繋がる検討を行う。

平成 2 2 年度キャリア教育事業成果報告書

発行者： 宮崎大学工学部実践教育推進センター
キャリア教育事業推進委員会

連絡先： 宮崎大学工学部教育研究支援室キャリア教育担当
〒889-2192 宮崎大学学園木花台西 1 - 1
電話 0985-58-7863
Email sce-um@cc.miyazaki-u.ac.jp
<http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/sce/>

発行日： 平成 2 3 年 3 月



宮崎大学

University of Miyazaki

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/>

木花キャンパス

〒889-2192

清武キャンパス

〒889-1692

宮崎大学（教育文化学部・工学部・農学部）

宮崎市学園木花台西1丁目1番地

宮崎大学医学部

宮崎郡清武町大字木原5200番地